

再評価結果（令和４年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 重要物流道路 一般国道４８６号 新市府中拡幅 <small>しんいちふちゆう</small>	事業区分 一般国道	事業主体 広島県																								
起終点 自：広島県福山市新市町戸手 <small>ふくやま しんいちちやうとて</small> 至：広島県府中市中須町 <small>ふちゆう なかづちやう</small>		延長 3.4 km																								
事業概要 一般国道４８６号は、岡山県総社市から広島県東広島市を東西に結ぶ主要な道路であるが、広島県福山市新市町戸手から広島県府中市中須町の区間は、慢性的な交通渋滞が発生している。新市府中拡幅は、渋滞の解消、地域間の連携強化等を目的とし、延長3.4 kmを4車線化する事業である。																										
H9年度事業化		H8年度都市計画決定																								
H12年度用地着手		H17年度工事着手																								
全体事業費 約264億円	事業進捗率 約59%	供用済延長 1.75 km																								
計画交通量 20,700～45,500台／日																										
費用対効果 分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;">1.2</td> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;">73/327億円</td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;">309/390億円</td> </tr> <tr> <td>(事業全体)</td> <td></td> <td>事業費</td> <td>72/325億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>300/373億円</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>4.2</td> <td>維持管理費</td> <td>1.5/1.5億円</td> <td>走行経費減少便益</td> <td>9.1/16億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益</td> <td>0.39/0.90億円</td> </tr> </table>	B/C	1.2	総費用	73/327億円	総便益	309/390億円	(事業全体)		事業費	72/325億円	走行時間短縮便益	300/373億円	(残事業)	4.2	維持管理費	1.5/1.5億円	走行経費減少便益	9.1/16億円					交通事故減少便益	0.39/0.90億円	基準年 令和3年
B/C	1.2	総費用	73/327億円	総便益	309/390億円																					
(事業全体)		事業費	72/325億円	走行時間短縮便益	300/373億円																					
(残事業)	4.2	維持管理費	1.5/1.5億円	走行経費減少便益	9.1/16億円																					
				交通事故減少便益	0.39/0.90億円																					
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=1.02～1.4 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=3.7～4.8 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.2～1.2 (事業費 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=3.8～4.8 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.2～1.2 (事業期間 ±20%) (残事業) 交通量 : B/C=4.0～4.4 (事業期間 ±20%)																										
事業の効果等 ・府中市中心部から山陽自動車道福山東ICとのアクセス向上が図られる。 ・災害時の第一次緊急輸送道路としての機能向上が図られる。																										
関係する地方公共団体等の意見 ・福山市より本路線は、地域連携や物流面において重要な役割を担うとともに、高速道路へのアクセスなど広域的な経済圏、生活圏形成のために不可欠な道路であるとして、早期完成に向けて着実な整備を要望されている。																										
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。																										
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。																										
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約62%、事業進捗率約59%																										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 これまでに中須工区及び戸手工区が完成しており、残る新市工区についても早期開通に向け、計画的に事業を進めていく。																										
施設の構造や工法の変更等 新市工区の橋梁設計において、プレキャスト製品使用の検討を実施するなどのコスト縮減に努める。																										
対応方針 事業継続																										
対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。																										

事業概要図

位置図



概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。